A99
Z
E27

昭和十三年八月
特輯第三號

加藤寛治大將述

「ワシントン」會議ノ追憶

外務省調査部第一課

秘

0010716000

0010716-000

A99-Z-E27

「ワシントン」会議ノ追憶

加藤寛治・述

外務省調査部第一課

1938. 8

ABJ

「ワシントン」會議ノ追憶

加藤寛治大將述

外務省調査部第一課

加藤寛治大將略歷

明治三年十一月福井縣ニ生ル、明治廿四年海軍兵學校ヲ卒業同廿七年海軍少尉ニ被任昭和二年海軍大將ニ累進ス、其ノ間淺間、筑波各副長、英國大使館付武官、海軍兵學校教頭兼幹事長、筑波、伊吹、比叡各艦長、海軍砲術學校々長、第五戰隊司令長官（浦鹽派遣）、横須賀鎮守府參謀長、海軍大學校々長、華府會議海軍首席委員、軍令部次長、第二艦隊司令長官、横須賀鎮守府司令長官、軍令部長等ニ歷補シ後軍事參議官ニ補セラレ昭和七年議定官被仰付昭和十年後備役被仰付、日露ノ役ニ從軍シ功ニ依リ功四級金鵄勳章ヲ賜ハル、又世界大戰ニ參加シ功三級金鵄勳章ヲ賜ハル。

A99
Z
E27

1.2.-7
書籍綜合目錄

319.8
393.1

88W73404

前言

本稿ハ突然ニ訪問サレタル外務省調査部ノ鈴木皓仁氏ノ質問ニ答ヘ全ク不用意ニ口述セル談話ノ速記ニシテ所言當路者ニ對シ禮ヲ失スルノ處ナキニ非ラスト感スル所アルモ予ノ僞ラサル追憶コソ却テ後日ノ參考資料タルニ適セン乎ト何等ノ修飾ヲモ施サス鈴木氏ノ請ヒニ任セ己ヲ揣ラス敢テ提供ヲ諾セルモノナリ讀者冀クハ予ノ微衷ヲ憐察高恕セラレンコトヲ

昭和十三年七月

海軍大將　加藤寛治

「ワシントン」會議ノ思ヒ出ト雜感

一

「ワシントン」會議ニ於テ私ノ特ニ感ジタコトハ、日本外交ヲヤルニ當ツテ、先ヅ内ニ日本ノ最後的根本方針卽チ國策トイフモノヲ決メテ徹底的ニ輿論ヲ喚起シテカカラナケレハナラヌトイフコトダ。ソシテ外交官ハ此ノ根本方針ニ基ク日本ノ主張ヲハツキリト辨ヘ强固ナル輿論ヲ背景ニシテ諸外國ニ臨マナケレバナラヌト思フ。

「ワシントン」會議前ノ列强ノ對日感情ハ必シモ芳バシイモノデハナク、寧ロ日本ハ今ノウチ壓ヘテオカナケレバ後ニ禍根ヲ殘スソトイツタヤウナ空氣デアツタヤウニ思フ。恰度私ガ世界大戰ノ休戰ノ頃「ドイツ」へ行ツテ歐米ヲ廻ツテ來タ時ニ、非常ナ日本攻擊ガ擴ツテキタノデ、コンナコトデハ今ニヒドイ目ニ遭ヒマスゾ、ト私ハ加藤（友三郎）海軍大臣ニ進言シタコトガアル。則チ

「各國ハ所謂元老ナリ或ハ重臣ナリ、國論ヲ背負ツテ立ツヤウナ、

又ソレヲ指導シ得ルヤウナ強力ナ人物ヲ出シテ、列國ト接衝サセ國策ノ諒解ニ努メサセテ居ルノデアルガ、日本ハトイフト、世界中ノ暴レ者ノヤウニ各國カラ誤解サレテ居ルノニ、サウシタ誤解ヲ解クタメニ何一ツノ努力ヲモシテ居ナイシ又ソレダケノ人物モ派遣サレテキナイ。此ノヤウナ狀態デ進メバ結局袋叩キニ遭ヒマスゾ」ト私ガ言ツタ時、加藤サンハ

「ソレハオ前ノ言フ通リダガ、第一ソンナ人間ガ居ラナイ。ソレカラ政治家ナドトイフ者ハ一歩踏ミ出セバ忽チ足元ヲ掬ハレテシマフ、行キ得ル人物モナイシ行コウト云フ人物モナイ。又目ボシイ人間ハ下手ヲヤツテ恥ヲカイテハ困ルト考ヘルノガ一般デアツテ、オ前ノ言フコトハソレハ理想トイフモノダ」ト言ハレタガ、果セル哉ソレカラ數箇月ナラズシテ「ワシントン」會議ガヤツテ來タ。

日本ガ餘儀ナク引摺ラレタ情勢デ確固タル對策モ決ラヌママニ一夜作リデスツタモンダシテ、稍々海軍ノミノ對策ヲ決メタダケデ、外

交ナリ國策ナリ何モ決マツテヰナイノニ出掛ケタモノダ。行ツテ見ルト、蜂ノ巣ヲ突ツイタヤウニ、日本ハ侵略國デアル、弱小國ヲ害ゲル國デアルトイフヤウナコトデグングンヤラレタ。ソレニ打勝ツベキコチラノ正議正論ハ一ツモナイ。當時米人ノ或ル親日家デスラ私ニ斯ウ言ツタコトガアル。

「自分ハ絶對ニ親日デ、日本ガ好キデアリ、日本ノ爲ス所ハ絶對ニ支持スルガ、今日此處ヘ來テ居ル日本政府ノ代表者ナル者ハ、一体日本ハ力强クナリ富國トナツテ果シテ東洋ニ於テ何ヲスルカ、ソレヲ唯ハツキリト返答シテ呉レル人ガナイ。却ツテ反對ニ、海軍ガ横暴ダ、時代錯誤ダトカ言ツテ外交官ハ海軍ヲ攻擊シ、財閥ハ又財閥デ海軍ハ財政ノコトヲ知ラヌト言ツテ内輪喧嘩バカリヤツテ居ルノデヤナイカ。コレデハ日本ヲ辯護スル途ガナイデヤナイカ」ト言ツタガ、斯ウ云フ狀態ノ中デ以テ日本ノ主張ヲ通サウナドトイフコトガ出來ル譯ハナイ。ソレカラ日本内地ノ輿論ハ御承知ノ通リ矢張リ政黨政治萬能デ、政治家ノアノ癖デ目前ノ利害ノミ考ヘテ、徒ラニ英米ノ强壓ニ屈讓スルトイフコトガ却テ將來ニ禍根ヲ貽シ、殊ニ支那方面カラ侮蔑サレテ今日ノ如キ侮日抗日ガ起ルデアロウトイフヤウナコトヲ我々ガ幾ラ言ツテモ、サウイフコトハ耳ニ入レヨウトモシナイ。唯一時ノ國民負擔ノ輕減トカ何トカイフコトデ一杯デ、海

軍ハマルデ向フ見ズナコトヲヤツテ居ルトイフヤウナコトヲ言フテ居ルシ、出先キハ出先キデ今會話シタヤウニ海軍攻撃ヲヤツテキタノデアツテ、國際會議ノ如キモノハアアイフ狀態デハ到底勝チ得ル見込ガアル筈ハナカツタノダ。

「アメリカ」側デハ、「ヒューズ」ガ毎日百人近ク新聞記者ヲ集メテ、「アメリカ」ノ主張ヲ内外ノ記者ニ親切ニ説明シ、ソノ結果、「アメリカ」ノ爲ス所、「アメリカ」ノ宣ヲシーニ向ツテ「アメリカ」全國ノ新聞ガ筆ヲ揃ヘテ宣ヲシートシタ。ソレガ會議開催中三箇月以上モ一絲亂レズニ行ハレタ。ソコヘ以テ行ツテコツチノ陣營ガ右ノ如クデ一致シタ行動ガ出來ヌバカリデナク、海軍ナラ海軍ノ執ラムトスル方針、當方ノ宣ヲシートイフモノガ出先キノ新聞記者ナリ外交官ナリ財閥ノ者ナリニ洩レテシマフノダ。コレハ公ケニ出來ナイコトダガ、加藤（友三郎首席全權）サンガ請訓スル内容ガ何處カラトナクチヤント先方ニ洩レテシマフト云フ樣ナコトガアツタノ

ダ。ソノ上暗號ハ直グ解讀サレル。悉クサウイフヤウナ狀態デアッタ。

「アメリカ」、「イギリス」等ノ如ク輿論政治ノ國デハ殊ニサウダガ政治家トイフ者ハ輿論ヲバックニシテ行クトイフコトガ非常ニ必要ナンダ。コレハ例ヘバ後我議論ノ末「アナタノ言フコトハ尤モダケレドモ我ガ國ノ輿論ガソレヲ肯カナイ」ト言ッテ逃ゲテシマフコトガ出來ルカラダ併シ日本ニ於テハソレガ一ツモ出來ナイノデアッタ。ソノ訓練ガシテナカッタ。輿論ヲバックニスルトイフコト私アンダ日サクソンノ國民ニ利クコトハナイノダ。「アナタノ議論ハ尤モダガ輿論ガ肯ガナイカラ私ハ承諾スルコトガ出來マセヌ」ト言ッテ逃ゲテシマフノダ。「アメリカ」ハ先ヅ第一ニ輿論ヲ指導シテ國策ヲチヤント確定シ、サウシテ事前ニ結束シテ決メタソノコースヲ一直線ニ進ンデ行ッタガ、日本ニ於テハソノ根柢ニナルベキモノガ何モ出來テナカッタ。專實ソレハ遠慮ナク言ヘバ、我ガ海軍ノ主

張ヲバックスルニ最モ大切ナノハ我ガ國策ノ根本義デアツタ。卽チ日本ガ東洋ノ安定勢力トシテ平和ノ維持ニ必須ノ海軍力ヲ要スル所以ハ、國情モ政情モ混沌トシテ毫モ國家ノ体ヲ爲サズ全然統治ニ無能力ナル支那及ビ支那人ヲ攪亂誘惑シテ日本ト衝突セシメ漁夫ノ利ヲ收メントスル外力、殊ニソビエット露西亞ノ如キ世界赤化ノ凶惡ナル魔手ヲ封ジテ、苟モ東洋ニ於テ實力ヲ以テソノ慾望ヲ恣ニセントスル何レノ國家ノ覬覦ヲモ許ササルニ在ル。斯クシテ我ガ國ハ支那數千年ノ文化ヲ救ヒ四億ノ生民ヲ塗炭ノ窮苦ヨリ免レシメテ東洋ノ福祉ヲ增進セントスル建國以來ノ國是ヲ履踐セントスルニ外ナラズ。卽チ自主防衛不脅威不侵略ノ海軍政策ノ止ムベカラザル所以デアル。

斯クノ如キ政策ハ毫モ日本獨自ノ利害打算ニ出デタルモノデナク、實ニ世界全体ノ安定平和ニ歸結スベキ正論デアルカラ、世界共同ノ平和策トシテ堂々ト英米ニ喚ビカケ日本ノ政策ニ參加協同ヲ求ムル

コトガ可能デアツタト思フ。

但シ英米ノ輿論ヲ肯定サセル爲ニハ支那ノ政情ヤ國情ヲ明快ニ爬羅剔抉シ、殊ニ聯共抗日ノ毒牙ガ日本ニ止ラズシテ結局ハ英米乃至白人驅逐ニ迄徹底スベキコトヲ確證ヲ擧ゲテ宣明シナケレバナラヌ。然ルニソノ頃ノ日本ハ是等ノ準備研究ガ誠ニ不足デ支那ヤ「ソビエツト」側カラノ惡宣傳ニ乘ジラレタ米人等ノ妄論ニサヘ堂々ト反駁スベキ具体的論據ニ乏シク、前ニ言ウタ如ク親日家ノ米人サヘ歎息スルヤウナ有樣デ、唯々日本海軍ノ主張ヲ打破ハスコトニノミ日本人自ラ渾身ヲ實シテ居ツタ姿デアツタ。

然シ斯樣ナ弱點ヲ暴露シタ原因ニ對シテハ海軍ノ我々モ決シテ無責任デハアリ得ナイノデ、畢竟スルニ事前ノ觀察又ハ折衝ノ準備研究ニ日本人全体ガ不用意不勉强デアツタ報ヒデ、彼ヲ知リ己ヲ知ル戰捷ノ祕決ヲ忽緒ニ附シテ居ツタ罪ハ尠少ナラズト私自ラ慚愧悔恨堪ヘナイノデアル。

二、

遺憾ナガラ當時外務省關係ノ代表者諸君ナドノ間ニ於テスラ、海軍ハ無暴ナ主張ヲシテ國際協定ヲ破ルモノダトイフコトガ先入觀ト
ナツテキテ、ソレガ逆ニ廻ツテ海軍ノ爲ス所ヲ打チ壞サウトスルヤ
ウナ傾向ガドウシテモアツタ。

ソレモ政黨ノ力トイフモノガ大キカツタカラデ、政黨化サレタ外務
省トイフモノノ自然ノ勢ヒダツタ。軍人ノ中ニモソノヤウナ人達ガ
アツテ、矢張リ輿論ニ迎合シ、政治家ノ主張ニ迎合シテ、一時ナリ
トモ英米ト協調スルノガ將來ノタメデアルトイフヤウニ考ヘ、我々
ト逆ノ立場ニ立ツタ者モアツタ。トコロガ、ソノ時モ私ハ言ツタノ
デアルガ、「アングロサクソン」人トイフ者ハライトっアンド。ヰ
ヤスチストイフコトニ就テ非常ニ尊敬ヲ拂フ。サウシテ日本ノセン
チメンタリズム、感情ヤ御都合主義デ糊塗妥協スルトイフコトハ、
彼等ノ侮蔑ヲ招ク因デアル。言ヒタイコト、主張スベキコトハ正々

堂々ノ論據カラ彼等ヲ說破スルトイフコトガ率ロ彼等ニ非常ニ尊敬セラレル所以デアル。妥協トイッテモ根據ノナイ叩頭妥協ハ侮蔑サレル。

私共ハ度々英國ニテ得タ印象カラソレヲ加藤（友三郎）サンナドニモ申シタコトガアル。

「帝國議會デ國務大臣ガ政黨ヲ相手トシテ詭辯頓智ヲ闘ハス樣ナ事當リ主義デ「アングロサクソン」ニブツカツタラ大失敗デス。ドウシテモコチラノ堂々タル根據ニ依ッテライト・アンド・チャスチスノ痛イトコロヲ突イテ行カネバ駄目デス。」ト無遠慮ナ忠告ヲ述ベタコトモアル。併シナガラ、ドウモコレハ外交官バカリデナク軍人デモサウダガ、面ト向ッテ正義ヲ堂々ト主張スルト相手ノ感情ヲ害シヘシナイカトイフ、サウイフ女性的ナ心理ニ支配サレルコトガ非常ニ多イ。少ク共ソノ氣持ガ内在シテ居ルカラ、コンナコトヲ言ヒニ言フタラ感情ヲ害シヤシナイカト惧レル。トコロガ實際ハソノ反對ナノデ、正義公道ニ依ッテ論破サレルト彼等ハ「参ッタ」ト言フ。

現ニ私ガ大正七年ダツタカ「ロシヤ」ノ革命後「ウラヂオ」ニ革命ノ餘波ガ及ンデ來テ大動亂ノ起リカケタ時ニ私ハ第五警備船隊ノ司令官トシテ居留民保護、日本ノ權益擁護ノタメニ遣ハサレタコトガアル。ソレハ英國ト同盟シテ居ル時デアツタガ、ソノ時ハ「アメリカ」ノ司令長官ト「イギリス」ノ艦長トソレカラ私トガ海軍代表デ當時ノ浦鹽ノ安寧ヲ維持スル列國ノ代表者デアツタ。ソレデ陸上ノ色々ナ面倒ナ問題ヲ處理スルタメニ隔日位ニ、大キク言ヘバ列國ノ代表者會議トイツタヤウナモノヲ開イタモノダ、「アメリカ」ノ司令長官ナドハ隨分勝手放題ナ暴論ヲ吐イテ掻キ廻サウトシテキタ。「イギリス」ハ未ダ同盟ノ間デアツタカラ私ニ追從シテ來タガ、ソノ矢面ニ立ツノハ私バカリデアツタ。トコロガ幸ヒニ「アメリカ」側ニハ領事館始メ司令長官ニモ「ロシヤ」語ノ良イ通譯ガキナイ。世界中非常ニ缺乏シテ居ル時デアツタガ、幸ヒ日本ニハ相當ナ露語ヲ話シ又讀ム者ガアリ、殊ニ私ノ持ツテ居ル通譯ガ第一期ノ外國語學

校ノ卒業生デ非常ニ良ク出來ル男デ、クラシックナ露語モ知ッテ居ルシ又漢文ニモ達シタ男デ、非常ニ良ク通譯モシ、向フノサイコロジーヲ以テ良ク判斷シ、又日本ノサイコロジーヲ以テ巧ミニ通譯シテ我々ニ說明シテクレタノデ情報ハ極メテ周密且ツ根柢ノ强イモノガアッタ。斯樣ニシテ諸種ノ情報ハ一番早ク私ニ入ッタ。ダカラ「アメリカ」ノ司令長官ガ傍若無人ナコトヲ言ッテモ、一々ソレヲ說破スル材料ガアッタ譯デ、彼等ガ色々議論ヲ吐クノヲ默ッテ聞イテキテソレカラ正確ナ根據ヲ以テソレハ間違ヒデアル、事態ハ斯ウデアルト確實ナ情報ニ依ッテ說明スルト、ソレハナイトトイフアドミラルダッタガ到頭「ユー・アー・ライト・サー」ト言ッテ、口角泡ヲ飛バシテヤッタ議論デモ、自分ガ敗ケダト分レバ「ユー・アー・ライト・サー」ト言ッテ飄然ト掌ヲ返スガ如クコチラノ主張ニ追從シタモノダ。コレニハ私ハ日本人ノ學ブベキ所ガアルト思ッテ感心シタガ、コレハ又「アングロサクソン」ノ良イキャラクターデアル。

[illegible]

ソノ後私ガ「ワシントン」ヘ行ッタ時ニハソノ「ナイト」トイフ提督ハ豫備ニ入ッテキタガ非常ニ私ヲサポートシテ呉レテ、蔭ニ陽ニ支援シテクレタ。「ウラヂオ」デハ喧嘩ノヤウナ議論ヲヤッテ居ッタノニ私ノ執ッテ居ッタ途ガ正シイモノデアルトイフコトヲ感銘シタト見エテ、非常ニ良ク世話シテ呉レタ。コレハ一寸「ジョンブルニハ出來ナイト思フ。然シ大体ニ於テ「アングロサクソン」ハ正義フ根柢ニ置イテ堂々ト主張スル者ヲ尊敬シ、ソノ議論ニ敗ケタカラトテ決シテ冀意地ヲ張ラナイ。コレヲ心得テ置クコトハ「アングロサクソン」ニ對スル非常ニ大事ナ祕術デアル。センチメンタリズムハ絶對ニイケナイ。彼等ノ言フ「ビジネス・イズ・ビジネス」トイフノハソコナノダ。

コレハ私ノ職務上ノ經驗ダカ、私ガ「ロンドン」デ大使館附武官ト造兵、造船監督官ヲ兼ネテ居ッタコトガアル。

ソノ當時ノコトダカ、例ヘバ自分ノ部下ガアムストロングナリビッカースナリノ會社ノ重役ニ招カレテ芝居ニ行ッタリ御馳走ヲ受ケタリスル。サウスルトソコニ一ツノフレンドシップガ出來ル。スルトソレニ支配サレテ、翌日會社ナリ海軍ノ事務所ナリニ於テ「ビジネス」ノ問題ヲ論爭スル時ソノ感ジガ出テ來テ、言ヒタイコトモ言ヘナイ。詰リ御馳走政策ニ乘ル譯ダ。サウイフコトニ氣付イテ私共ニ「コンナ招待ヲ受ケマシタガドウシマセウカ」ト相談シタ人ガアッタ。ソノ時私ハ言ッタ。「ソンナコトハ決シテ遠慮シテハイカヌ。第一君ハ返禮出來ルナラバ返禮スレバ宜イ。出來ナケレバ受ケッ放シデ差支ナイ。」トコロガ「ソンナコトスルト工合ガ悪イ」ト言フ。ソコデ私ハ「何モ工合ノ悪イコトハナイ。「アングロサクソン」ノサイコロジーハ決シテソンナモノデヤナイ。ドンナ招待ヲ受ケヤウ

ガ、翌日海軍ノ事務所ヘ重役ヲ呼ビツケタ時ニハ君ハ海軍ヲ代表シテ居ルノデアルカラ、思フ通リノコトヲ言ッテ主張ヲ通サナケレバナラヌ。ソレヲヤラナイト却ッテ輕蔑サレル。支那トカ南米トカノ海軍ノ代表ガ輕蔑サレルノハミンナコレダ。日本ノ士官ハ偉イト言ッテ居ルヨ」ト言ッタ。ソレハ恰度外交ノ接衝ト同ジコトデアル。幾ラ昨夜デイナーノ御馳走ニナラウガフアミリア。インターコースヲヤラウガ、ソレニ支配サレテビジネスヲ誤ルトイフヤウナコトニナルト彼等ハ非常ニ輕蔑スル。日本人ノヤリ方ハヒドク公私ヲ混淆スルノデ困ル。例ヘバ茲ニ甲乙兩者ガキテ何カノ問題デ大激論ヲヤルトスルト、ソノ二人ハソコデ喧嘩別レニナッテシマフ。忘レルコトガ出來ナイノダ。ソレデ翌日私交上ノ關係デ會ッテモ横ヲ向イテシマッタリシテフランクニ出ナイ。ソレガ非常ニ嗤スル。コレガ「アングロサクソン」ノ性格ニ就テ見ルト、昨日迄火花ヲ散シテ論爭シテ居ッテモ、モウソノ場ヲ離レテシマフトマルデ生レ變ッタヤウ

ナ人間ニナツテ昔日ノ親友ハ何時迄モ親友デアル。私ガ「ロンドン」ニ居ル頃「バルフォアー」ト「ロイド・ヂョウヂ」ガ衆議院デ三度可決シタモノハ貴族院ハソレヲ否決スル權能ガナイトイフ問題ニ就テ論爭シタ。ソレデ長イ間議會デ火ノ出ルヤウナ議論ヲヤツテ居ツタガ、トコロガウキーク・エンドニナルト二人相携ヘテニースヘ行ツテ仲良クゴルフヲヤツタリシテ居ル。

ソシテ再ビ月曜日ニナルト歸ツテ來テ大激論ヲ續ケル。コンナコトハ日本ノ政治家ナドニハトテモ出來ナイコトデアル。

彼等ハ議會デ一度喧嘩スルト永世ノ敵ニナツテシマフ。我々ニハ色々ノ長所モアルガ、併シ國際的ニブツカル場合ニ考ヘテ置カナクテハナラヌノハ今ノヤウナ弱點ダ。センチメンタリズムデ、向フノ感情ヲ柔ラゲテコチラノ主張ヲ通サウトイフ考ヘハ、「アングロサクソン」ニ對スル場合ニハ全クノ反對ダト思フ。ドウシテモ彼等ヲ參ラセルノニハ十分ナ根據ト材料ヲ以テ説服シ信念ヲ以テ闘フトイフ

戰法デ進マナケレハナラヌ又ソレニ依ツテ本當ノ妥協モ出來、フレンドシップモ出來ルノデアル。個人關係ニ於テモサウデ、親友トナルノニハ、コレハ頼ムニ足ル、共ニ大事ニ臨ミ得ルトイフヤウナ相互信頼ガアツテコソ本當ノ親友ハ出來ルノデ、チヤラツポコナイイ加減ナオベツカバカリデ出來ル友交關係ハ決シテ固イモノデハナイ。殊ニ對外的ニハサウデアル。言フコトモ行フコトモ正々堂々タルモノデ、コレト提携スレバ天下ノ大事ガ出來ルトイフ位ニ思ハセテコソ國際的ノ握手ハ始メテ出來ルノダト思フ。繰返シテ言フガ、公ケノ場合ニ於テハセンチメンタリズムテハ何時モ敗ケル。

而シテ向フガセンチメンタリズムナドヲ無視シテ掛ツテ來ル强イ論法ニ對スル準備ガナイト、相手カラ二重ニ輕蔑サレル。ダカラセンチメンタリズムヲ捨テ、サウシテ山本權兵衛式デ行クノガ秘決デアル。

三、

従ッテ國際會議ニ當ッテハ、常ニ深キ根據ヲ以テ、何處カラ來テモ論破サレズ、又論破スルトイフ準備ヲ周到ニシテ行クコトガ大切デアル。現ニ「アメリカ」ノ「コングレス」ナドヘ行ッテ見テモ、議員ガ質問ヲシタリ又ハ議政壇上ノ奮鬪ヲヤル上ニ於テ一寸疑問ノ點ガアルト、直グ下ノ圖書館ヘ行ッテ自分ノ捉ヘタ問題ニ對スル材料ヲ集メテ出テ行ク。併シ日本ノ議會ナドニ於テハソンナ設備モナイシ、大臣ガ閣議ナドニ臨ム態度ニシテモ、行キ當リバッタリ主義ガ多イ。ダカラ深ク準備シテ居ル人ニハヤラレテシマフ。日本デハソノ意味ニ於テ体カッタノハ山本權兵衛伯ダッタ。二週間位以前カラ自問自答シテ居ッテ、ソレカラ閣議ニ臨ンダ。例ヘバ海軍豫算ノ問題ノ時ニ、大藏大臣ハ斯ウ言フダラウ、陸軍大臣ハ斯ウ言フダラウ、總理大臣ハ斯ウ言フダラウ、ソレヲドノ論法デ打破ルカトイフコトヲ考ヘテ居ル。私ガ秘書官ヲシテ居ッタ時、ドウモ私共ノ見當ノ附

カナイヤウナコトノ調査ヲ命ゼラレル。何ノタメカト思ッテ居ッタガ、段々經ット何時モ閣議ノ前ニソレヲヤルコトガ解ッタ。ソウシテ準備ヲ堅固ニシテカラ閣議ニ臨ム。ソコニ伊藤博文公ガ惚レ込ンダノダ。人間ノ偉イノハ勿論天稟モアルガ併シ大部分ハ周到ナル準備ガ元ダト思フ。山本伯ノソノ偉イ所ガ「ドイツ」ノ「カイザー」ニインターピューサレタ時ニ現ハレタ。日露戰爭後「コンノート」殿下ガ「ガーター」勳章ヲ持ッテ御出デニナッタノデ貞愛親王殿下ガソノ御禮ニ赴カレタ。ソノ時首席隨員トシテ山本伯ガ行カレタ。私モ隨員ノ末席ヲ汚シテ行ッタ。山本伯ハ「ロンドン」ノミッションガ済ムト直グ「ベルリン」ヘ行ッテ皇帝ニ謁見サレタ。ソノ時御座所ニ於ケル拜謁ハ僅ニ五分間位ノ豫定デアッタノガ四十何分トイフ長イ時間「カイザー」ガ伸バシテシマッテ、カイザーノソノ日ノ豫定ガスッカリ狂ッテシマッタ程デアッタガ、ソレ位滔々ト活敎自在ニ「カイザー」ヲシテヤラレタノデ、「今迄隨分日本ノステーツ

マンニ會ツタガ、アンナニ偉イ人ハナカツタ」ト言ツテカイザーガスツカリ惚レ込ンデシマツタ。私ハ侍立シテキテチヤントソレヲ聞イテキタガ、ホテルヘ歸ツテカラ「今日ノ「カイザー」トノ御會見ハ實ニ水際立ツタモノデシタ。ヨク咄嗟ノ間ニアンナ問答ガ出來タモノデス」ト言ツタラ「オ前イイコトニ氣ガツイタ。併シ俺ハ容易ナラヌ相手ト思ツタカラ三日三晩考ヘタノダヨ。「カイザー」ノ談話ノサークルガドンナ所迄來ルカ。彼ガワン。ヒートノサークルデ來タラ俺ハツウー。ヒートノサークルデ行キ、彼ガツウー。ヒートノサークルデ來タラ俺ハスリー。ヒートノサークルデ押ツカブセテ行ツテヤラウト思ツテ居ツタラソノ通リ來タノデウマクトントン拍子デ行ツタノダ。全ク準備ノ賜物ダヨ」ト言ツテ居ラレタガ、偉人トイフ者ハ無論天稟モアルケレドモ、ソノ半面ニ於テハ人ニ知レナイ非常ナ苦心ヲシテ居ルモノデアルトイフコトヲ覺ツタ。非凡ナ人デアルトカ天稟ダトカ偶然出來上ツタ偉人ノ如ク考ヘルケレドモ、

併シ偉人トイフ者ハ半面ニ於テ人知レズ苦心シ準備シ、何處カラデモ來イトイフ心構ヘガ出來テカラ臨ムカラ態度モ言語モ亦シツカリシテ來ルノデアル。アレダケノ大業ヲシタ人ガ偶然ニ出來ルモノデハナイ。「ナポレオン」デモ秀吉デモ皆サウダツタ。

四、

「ワシントン」會議デ米國ノ不當ヲ突イタノハ次ノ點ニアツタ。則チ米國ハ「ワシントン」會議ニ臨ム前ニ日本ハドノ位、英米佛伊ハドノ位ト海軍ノ保有兵力ノ制當ヲ勝手ニ決メテシマツテキタノデアル。ソレハ「メーフラワー」號トイフ大統領ノヨットノ中デ「ヒューズ」ト「ハーディング」ト「ロッヂ」トノ三人ガ祕カニ秘議密議シテ誰ニモ知ラサズニ拵ヘタプランデアツタ。ソウシテ青天ノ霹靂ヲ打タナケレバナラヌトノ考ヘカラ、先ヅ米國自身ガ、キャピタル。シップヲ自分カラ廢棄スルトイフハイハンドヲ打ツテソレデ膽ヲ拔イテヤラウトイフコトヲ研究シタ。尤モソレハ相當ニ「イギリス」トノ聯絡ヲ付ケテヤツタコトデハアルガ。

然シ海軍艦船ノ現有兵力トイフモノハ各國共ニ仲々祕密ニ出來ナイモノデ、各國ノ海軍現勢力ハ十分ニ判ツテキタ譯デアル。何シロ形ガ出來テクルモノナノダカラ軍艦ヲ内密ニ造ルトイフ譯ニ行カナイ。

今ハ色々ナコトデ懲リテ非常ニ秘密ヲ保ツヤウニヤツテ居ルガ、海軍ノ勢力ノ實在ハ仲々隱セナイモノナノダ。一時ニ率然トシテ現ハレテ來ルモノデヤナイノダカラ、ドウシテモ戰艦ヲ造ルノニハ三年ハカカルダラウ。諜報機關サヘ發達シテ居レバ大概判明スル譯デアル。ソレニモ係ラズアノ會議デ米國ハ高飛車ニ日英米佛伊ノ現有兵力ヲ自分勝手ニ算定シ押シ付ントシタノデ會議ノ揉メタノモ當然デアル。

三

ソレカラモウ一ツ「ワシントン」會議デ氣ヅイタ大切ナコトハ軍事諜報ニ依ッテ相手方ノ兵力ガドノ位ト為何處ノ要塞ガドウイフ構築ダトカ、ソレニハドウイフ大砲ガ備ヘテアルトカ、サウイフ「物」ノ調査ニハ皆非常ニ熱心デ又相當ニ調査ガ行屆イテ居ルケレドモ、「人」トイフモノノ調査ガ仲々出來テキナカッタコトダ。「ワシントン」會議ニ臨ム際ナドデモ米國代表ハ「ヒューズ」トカ「ハーヂング」トカ「ロッヂ」トカガ來ルトイフノニ、彼等ガ如何ナル性格ノ者デ、何處ノ會議デドウイフコトヲ言ッテ居リ、ソノ論法ハ斯ウデアルトイフヤウナ研究ガ全然ナカッタノデアル。今日デモソウデヤナイカト思フ。コレハ戰爭ト同ジコトデ、矢張リ統帥者ノ性格ガ戰ノ仕方ヲ支配スルノデアルカラ、鐵砲ガ何挺アルトイフガ如キ研究ヨリモ向フノ將軍ガドウイフ人間ダトイフコトヲ知ッテ、ソノ弱點ニ突ッ込ムトイフコトガ極メテ必要ナコトダト思フ。外交デモ矢張

リソウダ。ダカラ國際會議ニ當ツテハ、會議ノビジネスミタイナコトニノミ捉ハレナイデ、代表ノ論法トカ性格トカ經歷等ヲ調ベテ掛カラナケレバナラヌ。

六、

次ニ、人間ハ第一歩ニ於テ參ッテダヂダヂトスルト精神的ニ非常ニ敗北スルモノデアル。例ヘバ今ノ對支問題ニ於テモ彼等ガ日本ヲ凹マセルニハドウイフ方法デ來ルカ、又英米佛ガ共同スルニシテモドウイフ方法デ來ルカ、日本ニ對シテドウイフ舌端ヲ向ケテ來ルカトイフコトヲ深ク研究シ洞察シテ、ソレニ對スル方途ヲ深ク考ヘテ置カヌト立上リニ失敗スル。戰爭ニ於テモサープライズニカカルトイフコトガ一番禁物ニナッテ居ル。自分ノ考ヘテ居ラナイ所ヘ突ッ込ンデ來ラレテダヂダヂトスルト後ハスッカリ崩レテシマフ。ダカラサープライズニカカラナイトイフコトガ一番必要ニナッテ居ルガ、ソレハ外交デモサウデアルシ又個人ノ議論ニ於テモサウデアル。殊ニ「アングロサクソン」ハサウダ。ダカラ、日本流ノセンチメンタリズムデ來タナトイフコトガ分ルトソコニ弱點ヲ見出シテグングン攻メテ來ル。併シ反對ニ正論ヲ以テ逆手ヲ一本打ッテ參ラシテシ

マフト、コレハ手強イト思ツテ態度ヲスツカリ變ヘテ來ル。先程ノナイト提督ノ話モ、アレハ海軍ダケノ會議デアツタガ、向フハ材料モ持タズニ最初ハ頑張ルガ最後ニハ折レテシマフノダ。コレガ矢張リ隱然ト「アメリカ」人ノ心理ヲ支配シテ居ル。

併シ日本ハ未ダソレニ氣ガ付イテキナイノハ殘念ダ。

七

ソレカラ矢張リ會議モ戰爭ト同ジコトデ最後迄突ツ張ツタ方ガ勝ダ。「ワシントン」會議ノ時ニハコッチノ内訌ノタメニ陣營ガ非常ニ亂レタガ、アメリカ政府モ日本ノ固イ主張ノタメニ段々傾イテ來タノダ。詰リ戰爭ノ際ノ最後ノ五分間トイフノハ、我ガ軍ノ死傷ヤ損害ノミガ眼ニツクモノデアルガ、ソノ時ノ戒メハ、敵モ同ジ手傷ヲ負ツテ居ル否味方ヨリ以上ダゾト言ツテ積極的ニ攻擊スル者ガ何時デモ勝ツトイフコトダ。ソレト同ジコトデアル。米國ノ方ハ日本ノ突張リデ將ニ内閣ノ運命ニ繫カラントスル瀬戸際迄行ツタノダ。本當ニ最後ノ五分間トイフ所デ、モウ一歩日本ガ突ツ込メバ勝ツタノデアツタ。實力ニ訴ヘテ迄壓ヘヨウトイフヤウナコトハ絶對ニナカツタ。

八

「ワシントン」會議ニ於テ日本ガ英米ニ屈從シタ結果ヲ見テ、支那ハ抗日侮日ヲ始メタノダ。日本人ハ英米ニ對シテハ問題ニナラナイ

ト支那人ハ思ッテ居ル。ダカラ日本ガ英米追從外交ヲ繼ケテ行ケバ支那人ハツケ上ルバカリデアル。恰度南京事件ノ起ッタ前後デアッタガ、アレガ卽チソノ現ハレデアッタ。實際アノ時ニ今私ガ申シタヤウニヤッタラ、會議ガ破レテモ却ッテ雨降ッテ地固マルデ宜カッタト私ハ思フ。「ワシントン」會議ガアノ有樣デナカッタラ「ロンドン」會議モ起ラナカッタカモ知レナイシ、第一重大ナコノ支那事變トイフモノモ起ラズニ濟ンダカモ知レナイ。

六

日本ハ六割デアツタガ、「フランス」ハ更ニヒドカツタ。日本ノ勢力ノ半分位ニ制限サレタ。ソノ「フランス」ノ海軍代表ニ「デュポン」トイフ人ガキタガ、コノ人ガ又實際奮鬪シタモノデアル。實ニ血涙交々至ルト云フ日々ノ奮鬪振リデアツタ。會議ノ間ハ、米國新聞ノ例ノ調子デ非常ナ毒筆ヲ以テ攻撃サレタモノデアルガ、トコロガ「フランス」ガ屈從シテソレデ用ガナクナツタノデ彼ガ「ワシントン」カラ孤影悄然トシテ歸國セントスル時、私モ見送リニ行ツタガ、驚イタコトニハ非常ニ澤山ノ見送人デアツタ。ソレガ大部分ハ「アメリカ」人ダ。「アメリカ」ノ主張ニ猛烈ニ反對シテ自分ノ主張ヲ守ツタ「デュポン」ハ流石ハ「フランス」人デアル、良ク戦ツタト、死ヲ賭シテ爭ツタトイフソノ同情ガ見送リニ於テ現ハレタノデアル。果セル哉彼ハ「パリー」ヘ歸ルト病氣ニナツテ死ンデシマツタガ、會議ノタメニ死ンダヤウナモノデアル。此事ヲ一言ニシテ言

フト、國家ノポリシートシテハ、如何ニ彼等ガ唯我獨尊デアリ又利己一點張リノ態度デ來テモ、個人トシテハ人間デアルカラ、正當ナコトヲ正シク言ヒ、又公明正大ナル堂々タル態度デ進ム者ニ對シテハ矢張リ敬意ヲ表スルノダト思ッタ。ソコヲ掴マナケレバナラヌ。私共ハ「ヒューズ」ニハ一番感服シタ。「バルフォア」モ仲々偉イ男ダガ、外交生活ヲ五十年モヤッテ居ルノデ海千山千ノ老雄トシテ辯論トイヒ「ジエスチュア」トイヒ實ニ巧イガ、併シ一方ニ於テ「ヒューズ」ハ寧ロ咄辯デ策略モ何ニモナイ、ソレダケニ又赤誠ガ現ハレテ居ッタ。「バルフォア」ガ發言スルト、何ヲ言ッテルトイフヤウナ顔ツキヲ皆ガスル。「ヒューズ」ガ發言スルト皆ガ良ク聽イテ居ル。アノ人格ガ會議ヲ成功サシタモノデアルト私ハ思フ。人格ノ力トイフモノハ矢張リ第一ニ來ルト思フ。ソノ意味ニ於テハ相手ニ感動ヲ起サセル譯ダ。敬意ヲ拂ハセルノダ。斯樣ニシテ一度口ヲ開イタ時ハ深遠卒直ナル根據ヲ以テ戰フト云フ調子デ行ケバ大體主張トイフ

モノハ通ツテシマフモノデアル。人ヲ動カスノハ何トイツテモ赤誠ダ。ソレト人格ダ。今ノ「ヒューズ」ト「バルフォア」トノ對照デ良ク私ハ分ツタ。アレガ若シ「バルフォア」ガ議長デアツタラモツトアノ會議ガ亂レタト思フ。

十。

又熱誠ヲ以テ當レバ自國語デ話シテモ通ジル。加藤（友三郎）サンハ英語ハ分ルガ一切使ハナカツタ。サウシテ「スタンフォード」大學ニ居ル經濟ノ講師ノ市橋トイフ人ガ通譯シタ。遠慮ナク言フト、某全權ハ英語ガ出來ルノデ英語デ話サレル。結果ハ甚ダ宜シクナカツタ、英國人ノ武器タル英語デヤツテ勝テル譯ガナイ。自分ノ體驗カラ言フト國家ノ安危ニ關ル重大ナル折衝ニ英語ヲ使ハネバナラヌトカ「フランス」語ヲ使ハネバナラヌトカイフ必要ハ絶對ニナイ。サウイフ時ニハ語學專門ノエキスパートヲ連レテ行ツテヤレバ宜イノダ。「フランス」デモ「ドイツ」デモ大立物ハ大切ナコトハ皆ナ自國語ノ「フランス」語ガ「ドイツ」語デヤル。ソレガ又一ツノ利益ニナルトイフコトハ、コレハ別ノ考ヘ方デアルケレドモ、滅譯スル間ニ次ノ論法ヲ考ヘルコトガ出來ルノダ。相手ガ「ドイツ」語デ言ヒ、ソレヲ英語ニ譯ス間ニ攻撃ノ論法ヲ考ヘル。英語ヤ佛語ガ

[illegible]

國際外交ノ用語ダナドト云フ時代ハ既ニ過ギ去ツタ。殊ニ今日ノ國際會議ニハ言葉ノ異ル國々ガ集ルノダカラ通譯會議ハ當然ノコトデアル。遠慮ナク言フト、片手間ニヤツタ英語等トイフモノハ決シテ使フモノデヤナイ自ラ日本語ト云フ武器ヲ捨テテ敵ニ投スル樣ナモノダ。英語ノ出來ル人ナラ向フノ言フコトハ大低分ルノダカラ胸中デ準備ハ出來ルガ、コツチカラ言フ時ハ一言モ後ニ引クコトノ出來ナイモノデアツテ、駟馬モ及バヌ事ニナルカラ外交官ナドハ尙更ラ責任ヲ感セラルルコトト思フ。外交官ハソノ國ヘ行ケバソノ國ノ言葉ヲ使ハネバナラヌトイフヤウニ思ツテ居ラレル人モアツタガ、ソレハ積弊ダト私ハ思フ。殊ニ地位ガ高クナツテ首席全權トカ何トカニナレバ尙更ラノコトダ。英語ヲ使ハナクトモ向フハ何トモ思ハナイ。率ロ使フナラ專門家ニ使ハセルコトダ。加藤サントカ某全權ト比較デソレガ良ク分ツテ居ル。英語ノ素養ハ非常ニ必要デアルガ、併シソレヲ自分ノ武器トシテ論爭ニ用フルモノデハナイ。決シテ外國

語ハ武器デハナイ。私ハ幾多ノ國際會議ニ出席シテ痛切ニ感ジテ居ル。決シテ恥デヤナイシ、又ソレヲ專門ニ稽古シテ居ル人モアリ通譯ハ幾ラデモアル。槍舞台デ自分ガ立役者ニナツタ時ハ自國語以外ハ決シテ使フモノデハナイ。

「一」

今思ヒ返シテ見テモ体カツタト思フノハ小村サンダツタ。私モ戦争前ニ「ペナログラード」ノ公使館附武官ノ補佐官トシテ小村サンノ御世話ニナツタガ、犀利ナ人デ、公使館ヘ行ツテ御目ニカカルコトガ度々アツテ公使ノ室ヘ行ツテ見ルト、大概アーム。チェアヘ凭ツテ眼ヲツムツテ考ヘテ居ラレタ。山本サンミタイニ矢張リ始終大々ト大事ナ問題ヲ考ヘテ居ラレタノダラウ。

小村サンハ山本伯ト非常ニ仲ガ良ク、「ポーツマス」会議ノ時ナドニ於テモ一番同情ヲ以テ内地カラ支援シテキタノハ矢張リ山本サンダツタ。本当ニ小村サンノ心ヲ理解シテキタノハ山本伯ダラウト思フ。

山本伯ニシロ小村サンニシロアノ当時ノ人達ハ随分立派ナ人格者ガ多カツタヤウニ思フ。議論ノ相手トシテハ一緒ニ刺シ違ヘルヤウナ考ヘデ、又国事ノタメニハ命モ惜シクナイトイフヤウナ考ヘデ行カ

ヤ、又國學ハ、ヤハリ命チ掛ケテモトイトマナセ考ヘテ評ス
ルモナセニ思テ。勇猛ハ、時年イクマデハ一部ニ聴ク感ヘルヤウナ
山本部ニモロ小林セニモロ、ヤ、當初ハ人格ヘ敬ル立場ナ人部當セ
テ。

モモ。本當ニ小林セニハ、ホモ感嘆モモ、ヤ、ハ山本部モモセイ風
ニ対モチ一番同情モ見テ内部ハ支援モモヤ、ハ失敗リ山本セニ
小林セニハ山本部イ非常ニ制セ見モ、「ホイ」セ、ヤ一倉編ハ部セリ
イ大事ナ問題モ決ヘテ話モ、ヤ、ハ、ヤ。
モ期モ、ヤ、ヤ考ヘテ話モ、ヤ、ハ、ヤ。山本セニ、ヤ、トニ失敗リ故障失ル
ル選メテ、ヤ、ヤ公論ハ、ヤ、ハ、ヤ。ホ、ヤ、ヤ、ヤ

一二、

世界經綸カライツテ、又人物カラ見テ、私ノ偉カツタト思フノハ橋本左内先生ダ。先生ハ蘭學ヲヤツテ居ラレタカラ世界ノ事情ニ通ジテ居タ。吉田松陰モ烈士トシテ立派ナ人デアルガ、世界的知識ニ於テハ左内ノ方ガ偉カツタ。當時ノ日露同盟論ナドヲ見テモ立派ナモノダ。アレハ確カ二十二カ二十三ノ時ダ。今デハ大學ヲ出ルガ出ナイカノ頃ダガ、ソレガ堂々ト日本ノ國策ヲ論ジテ居ルノダカラ、如何ニ傑出シテ居ラレタカガ分ル。

私ハ能ク青年ニ向ツテ言フノダガ、橋本左内ハ典型的ナ日本精神ノ持主デアルガ、然ラバ今日ノ青年ガアノ通リナレナイカトイフト決シテサウデハナイ。左内ガ偉カツタノハ、アノ人ガ口ニスル忠孝一貫、私ノ考ヘヲ一切棄テタ至誠一貫ノ人デアツタガ故ニアレダケノ努力モシ勉强モスルヤウニナツテ偉クナツタノダ。先生ノ十五ノ時ニ書イタ「啓發錄」トイフノガアル。アレガアノ人ノ成功ノ根本デ

一二、

世界經綸カラ言ツテ、又人物カラ見テ、私ノ尊敬スル人ハ橋本左内先生ダ。先生ハ蘭學ヲヤツテ居タカラ世界ノ事情ニ通ジテ居タ。吉田松陰モ烈士トシテ立派ナ人デアルガ、世界的知識ニ於テハ左内ノ方ガ偉カツタ。當時ノ日露同盟論ナドヲ見テモ立派ナモノダ。アレハ僅カ二十二カ二十三ノ時ダ。今デハ大學ヲ出ルカ出ナイカノ頃ダガ、ソレガ堂々ト日本ノ國策ヲ論ジテ居ルノダカラ、如何ニ傑出シテ居ツタカガ分ル。

私ハ能ク青年ニ向ツテ言フノダガ、橋本左内ハ典型的ナ日本精神ノ持主デアツタガ、然ラバ今日ノ青年ガ左内ノ通リナレナイカト云フト決シテサウデハナイ。左内ガ偉カツタノハ、アノ人ガ口ニスル言行一貫、私ノ考ヘヲ一切棄テタ至誠一貫ノ人デアツタガ故ニアレダケノ努力モシ勉強モスルヤウニナツテ偉クナツタノダ。先生ノ十五ノ時ニ書イタ「啓發錄」トイフノガアル。アレガ今ノ人ノ成功ノ根本デ

アツタ。ダカラ左内ノヤウニ偉クナリタイト思ヘバ、私トイフモノヲ忘レテ掛ツテ見ルコトダ。サウスレバ學ブコトモ徹底シ、是非曲直ヲ判斷スルコトモ神ノヤウニナル。私慾ヲ去リ良心ヲ喚起セバ心ノ鏡ガ明々皎々ト輝イテ總テノ理非曲直ガ分リ、世ニ盡スノニモ間違ガ無ク眞劍ニナレルノダ。要スルニ至誠ニ固マレバ橋本左内ノヤウニナレルノダ。日本ノ青年ハ皆ナレルノダ。總テ至誠ニ發スル發奮努力ダ。山本權兵衞サンノ大業モ至誠ニ發シタ熱慮斷行ダ。グレート、メンナドトイフ者ハ卒然トシテ出來ルモノヂヤナイ。半面ニ苦心努力ガアツテ出來ルノダ。

日本ノ青年ヲ誤ラシタ原因ノ一ツニハ醉生夢死ニ陷スト云フコトガアリハシナイカト思フノダガ、左内ナドハ朝カラ晩迄寢テモ醒メテモ大義ノタメニ盡サウトイフコトヲ忘レナカツタトイフコトガ書イテアル。聖賢ノ書ヲ父カラ與ヘラレ、師ニ就テ勉強スルガ一向ニ進歩ヲ見ナイ。斯クノ如クシテハ大義ノタメニ盡セナイト泣イテ居ツ

[illegible]

タ。ソノ中ニフト我ガ身ヲ省ミテ、コレダケノコトガ未ダ自分ニ足リナイト思ッテ書イタト云フノガ「啓發錄」デアル。人間ハ何時迄モ子供ラシイ心ヲ持ッテキテハイカヌ。母ノ許ニ在ッテ御菓子ヲ貰フヤウナ心持デハ大義ニ徹スルコトハ出來ナイ。昔ノ武士ノ子ハ十三ニシテ敵陣ヘ行ッテ首ヲ取ッテ來タ。アアイフ氣慨ヲ持タネバナラヌ。氣慨ガナクテハ何事モ進歩スルモノデハナイ。武士ガ人ニ尊敬サレルノハ氣魄デアル。サウシテ大ニソノ氣慨ヲ以テ志ヲ立テルトイフコトデアル。志ヲ立テナケレバ如何ナル努力モ唯右往左往シテ一向纏リガナイ。志ヲ立テルトイフコトハ、コレカラ江戸ヘ行カウカ或ハ九州ヘ行カウカトイフコトヲ決メテ行クコトデアッテ、目標ヲ定メテ行ケバ如何ナル弱イ足デアッテモ結局ハ江戸ニモ九州ニモ着クノデアル。ソノ次ガ勉學之事。卽チ私心ヲ去リ、氣慨ヲ持チ、志ヲ立テテモ勉强シナケレバ、自分ノ知識ガ空虛トナル。無駄骨ヲ折ル。例ヘバ戰陣ニ出テモ矢張リ古來ノ兵學ヲヨク學ビ名將ノヤッ

タコトヲ學ンデ拔カリノナイヤウニスルコトデアル。詰リ盲目滅法ニ進マヌヤウニスルタメニハ勉强ガ必要デアル。ソレカラ友ヲ擇ベトイフコトダ。善友ト惡友トアルガ、善友ト見タナラバ兄弟ノ如ク親ンデ敬ヘヲ乞フベキデアル。惡友ト見タナラバ自分ノ修メタ道ヲ以テソノ人ヲ救ッテヤレトイフコトガ書イテアル。寧ロソノ人ノ救ヒ主トナレトイフコトガ書イテアル。善友ハ大切ダケレドモ、動々モスルト善友ハ自分ノ好ムコトノミハ言ハナイ。ダカラ或ル時ハ不快ノ心持ヲ起シタリスルコトモアルガ、ソレハ自分ノ足ラナイ所ヲ注意シテ呉レルノデアルコトヲ知ラネバナラヌ。苦イコトヲ言フノハ自分ノタメヲ思ッテ言ッテ呉レルノデアル。斯ウイフ五ツノコトヲ書キ殘シタノハ、自分ハコレダケノ修養ガ足リナイノデ、コレカラコレヲ守ルノデアルト書イテアル。ソレガ橋本左内十五ノ時デアル。コレガ出發點ダ。コノ氣持デ實際ニ臨ンダカラ、ヤルコト爲スコト總テガ徹底シタノダ。

川路聖謨トイフ非常ニ煮テモ焼イテモ喰ヘナイ、恰度今日デ言ヘバ「スターリン」ミタイナ、時ノ幕府ノ大老ニ、左内ノ藩主ノ松平春嶽ガ左内ヲ使者トシテ談判ニヤツタコトガアル。ソノ時ニ春嶽公ハ、「川路トイフ奴ハ煮テモ焼イテモ喰ヘナイ代物デアルカラ餘程氣ヲ附ケテ行ケ」ト言ツタ。「承知致シマシタ」ト出テ行ツタガ、ソレハ二十三四ノ時ノコトダツタ。行ツテ見ルト小川路ハ傲然ト構ヘテアシラツタガ、トコロガ左内ハ冷靜ニソレヲ受ケテ諄々ト質問ヲ進メ、一言々々川路ガ誤魔化シ得ナイヤウナ質問ヲカブセテ行ツタサウダ。到頭川路ガ青クナツテ、橋本ヲ師シテカラ後ニ春嶽公ニ向ツテ、「アナタノ家來ニハ實ニ偉イ人ガアル。コノ間ノ左内トイフノハ年ハ若イガ恐ルベキ人物デス、今迄私ハアンナ人物ニ出會ツタコトガナイ。彼ノ言々句々一々私ノ肺腑ヲ突キ、短刀デ胸ヲ抉ラレルヤウデ實ニ驚イタ」ト話シタコトガアルサウダ。左内ハ何時モ斯ウ言ツテ居ツタトイフコトガ書イテアル。「人ト談判ニ行ツテ説得出來ヌノ

ハ自分ノ準備ガ足ラナイノダ。ダカラ研究シテ又行クノダ。相手ヲ決シテ馬鹿ト思フナ。自分ガ足リナイト思ヘ」ト。實ニ至言ダ。サウイフ所ハ矢張リ本當ノ誠ノ心ガアルカラ出テ來ル譯デアル。大概ノ者ハ、譯ノ分ラナイ奴ダト言ッテ人ヲ責メルモノデアルガ、自分ヲ責メテ目的ヲ達セヨト言フ左内ノ戒メハ尊トイ。

西郷南洲ガ城山デ死ヌ時携ヘテキタ鞄ノ中ニ左内ノ手紙ガアッタサウダ。死ヌ迄例頸ノ交リヲシテキタノデアル。左内ノ主張ハ攘夷デモナイ、鎖國デモナイ、開國シナケレバ日本ハ國ガ持タナイトイフ主義デアッタノダガ、ソレニハ先ヅ内ヲ治メテ、今日デ言ヘバ所謂強力内閣ヲ作ラネバナラヌ。然ルニ將軍家茂ハ病弱デロボットデアル。コレデハ危イカラ彼ヲ取替ヘロトイッテ徳川慶喜ヲ擁立シ、今ノ内閣ノヤウナ制度ヲ進言シ、島津、鍋島、山内等ノ偉材ヲ集メテ内閣ヲ拵ヘ、ソシテ將軍ヲ輔翼サセヨウト考ヘテ時ノ將軍家茂ノ廢位ヲ企テ、和ノ宮ニ御附キシテ來タ村岡トイフ千代田ノ大奥ノ老女

ヲ通シテ將軍廢立ノ策謀ヲ西郷ト共ニヤツタノデアル。ソレ程ニ深ク西郷モ左内ヲ信ジ、死ヌ迄尊敬シテキタノデアル。ソノ手紙ガ殘ツテ居ル。

藩主松平春嶽公モ亦偉カツタ人デ、西郷ニ對スル島津成彬ノ如キモノダツタ。矢張リ駿馬モ伯樂ニ會ハナケレバ伸ビ得ナイト同ジコトデアル。併シ何トイツテモ人ノ誠意トイフモノハ恐シイモノデ、アレ程ノ偉人ガ出來タノハ全ク誠ノ心カラ出發シタカラデアル。ソレガ現ハレテ居ルノガ「啓發錄」ダ

（終）

（註）

ダ「鶏舎」ハ「ふしん」ガ無ケレバ出来ルモノデハナイ。ソノ為ニ「ふしん」ヲ出来ルヘク多ク出来ルヘク速ニ出来ルヤウニスルノデアル。

ソレデ「ふしん」ノ為ニ「ストライキ」ヲ人ノ為ニ「ストライキ」ヲ